



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 I V 】
2 実施対象者	福岡県立嘉穂高等学校附属中学校 第2学年A・B組80名及び保護者・地域の方40名程度 合計 約120名程度
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育及び総合的な学習の時間) ② 行事名 (公開授業) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピック教育を行うことにより、スポーツの価値や効果を理解させ、世界の平和に向けて貢献できる生徒の育成を図る。 ○オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、活躍する日本人などあらゆる分野について知ること、スポーツを楽しむ心を育てる。
5 取組内容	① ポスターセッションの実施 オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、活躍する日本人などあらゆる分野において、テーマ毎（20グループ）に調べ学習を行い、交流する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> ② パラリンピック選手による講演会の実施 柔道家の正木健人選手をお招きし、「情熱をかけて夢を叶える～世界一への挑戦～」という演題で、講演をしていただいた。その中で、世界で活躍するために苦労したことや努力したこと、視覚障害に対する考え方など、スポーツ教育だけでなく、障害者に対する教育について、それを踏まえてのパラリンピック大会の見方や考え方など色々な視点から話をされた。また、2020年に開催される東京オ

オリンピックでは、「必ず日本代表として出場し、金メダルを取って
もう一度、講演しに来ます」と勇気や希望を生徒に与えてくれるコ
メントをいただいた。

※正木健人選手について

2012年ロンドン・パラリンピック 100kg 超級 金メダル

2016年リオデジャネイロパラリンピック 100kg 超級 銅メダル



③ パラリンピック選手による体験活動

正木選手による柔道体験活動では、武道場で正木選手自らも柔道着に
着替え、オリンピック・とパラリンピックの柔道の礼法や試合の仕方
の違いについて、演技指導を交えながらの説明を頂き、また実際に正
木選手の得意技を披露していただいた。本物のパラリンピックで活躍
する選手の凄さに生徒たちは、圧倒されていた。

【パラリンピック特有の仕方を説明】



【礼法の仕方】



【立会の仕方】



【実際に技を披露】



【みんなで記念撮影】

6 主な成果

① ポスターセッションについて

20テーマに分かれて、各グループでインターネットや文献を中心に調べて、発表することにより、オリンピックやパラリンピックについて、今まで深く考えていなかった生徒もこの機会を通して、もっと深く知りたい、また東京オリンピックに興味を持つ生徒が増えた。また、最後のまとめでは、「オリンピック・パラリンピックは世界平和のためにとっても大切な機会だと知りました」という意見を聞くことができた。さらに、保護者や地域の方々も興味・関心を持ってポスターセッションに参加して頂き、地域を巻き込んだオリンピック・パラリンピックムーブメントができた。

【生徒のコメント】

詰まっている。戦争をなくし、世界平和を願って開催されているオリンピック・パラリンピックは、敵同士でも関わり合い、繋がりが合点、輪を広げられる、大切なものだと私は考える。また、2020年、東京オリンピックにおいて、東京では

【保護者や地域の方も一緒に参加】



【嘉納治五郎の説明】

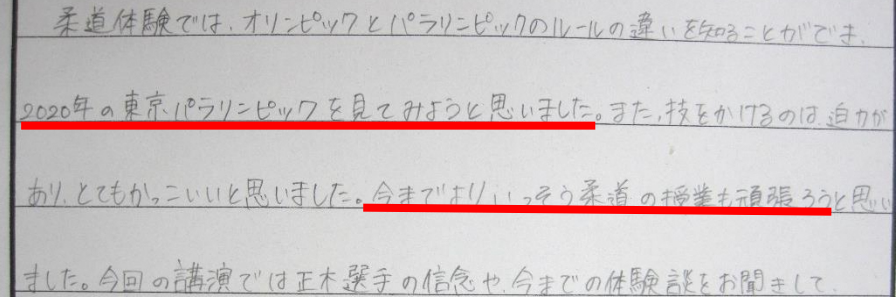


② パラリンピック選手の講演会について

正木選手の生き方や柔道に対する取り組み方を聞いて、生徒の感想には、「何事にもネガティブに考えるのではなく、ポジティブに考えることの大切さを学ぶことができました」というコメントをたくさん見ることができた。また、金メダリストでも気持ちの弱さがあること等を話して頂くことで、生徒は身近に感じることができ、自分も逃げずに挑戦しようという気持ちを持つことができる講演会となった。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで活躍する日本選手を応援したいという気持ちを作ることができた。

【生徒のコメント】

した。今日の正木選手の講演を聞いて、気持ちを切り替えて頑張りたいと思うことができました。特に、何事にもチャレンジしてほしいという言葉が聞けて、迷っていることにも臆病にならずに挑戦してみようという気持ちになりました。

	<p>③ パラリンピック選手による体験活動</p> <p>柔道体験では、金メダリストが繰り出す技の迫力に圧倒されて、2020年の東京オリンピックを観戦したいという気持ちを作ることができ、また日頃の体育授業で行われている柔道の授業においても頑張ろうという気持ちにつながった。生徒にとって、実際に「本物を見る」ことの大切さや感動を味わわせることができた。</p> <p>【生徒のコメント】</p> 
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○ポスターセッションでは、オリンピック・パラリンピックについて、受け身ではなく自ら調べて、ポスターを作成し、自分の言葉で発表するなどアクティブラーニングの要素を取り入れることで、興味・関心を深く持たせることができたと考える。また、公開授業とすることで保護者や地域の方、本校に興味を持っている小学生にもオリンピック・パラリンピックの意義等の理解を深めることができた。</p> <p>○実際に、パラリンピック選手を招き、講演や体験活動を行うことにより、映像や音声では、感じる事ができない迫力や選手の考えなど本物の凄さを感じさせることができた。特に、体験活動では正木選手の大きな体から繰り出される豪快な技を目のあたりにすることで、講演会では感じる事ができなかった正木選手の努力や稽古量を生徒は実感していた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○費用がかかることが1つめの課題である。オリンピック・パラリンピック選手を招聘して、講演会や体験活動を行う場合、スポンサーとの交渉や交通費、謝礼など費用がかなりかかることが予想される。</p> <p>○2つ目は、時間の調整である。講演会や特別授業を組む場合、年間計画に組み込まないといけないので、授業時数との調整や他の学校行事との調整が必要となる。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○講演会については、費用がかかるのでオリンピック選手やパラリンピック選手による講演を実施することは難しい。しかし、ポスターセッションは、体育理論や総合的な学習の時間を活用し、また公開授業で保護者の方や地域の方にも楽しんでもらいながらオリンピック・パラリンピックムーブメントを2020年まで実施していき、学校全体でオリンピック・パラリンピックを応援する体制を作っていきたいと考える。</p>

